

# “Heart to Heart”

第2巻 第1号

発行日 平成19年7月20日

心から心へ わかちあう あたたかさ

## 目次:

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| 子どもの成長に立ち会う                 | 1 |
| コラム：この人たちの魅力/<br>私がつりつかれたわけ | 2 |
| コラム：療育に思う                   | 2 |
| ギャラリー紹介                     | 3 |
| セミナー等のご案内                   | 3 |

## 子どもの成長に立ち会う

1987年に北原キヨが学園の職員を主力に建ち上げたポストン東スクールが、今年20周年を迎え、6月に行われた記念行事に参加してきました。そのメインは21日の自閉症国際会議で、イギリスや日本の自閉症協会をはじめとする各国の教育専門家によるパネルディスカッションや、著名な方々の研究発表が多彩に盛り込まれていました。

またこの20周年は、久々にポストン東スクールの子どもの様子に接する機会を与えてくれました。まずは会議の合間に行われたポストン東スクールのジャズバンドの演奏です。アメリカのお国柄で聴衆も感動をそのままに表現します。日本にはない熱狂的な声援に沸き、最後はスタンディングオベーションでした。また国際会議の翌日は、朝からロードレースが催されました。イベントを盛り上げ生徒の頑張りを鼓舞して張り上げる担当スタッフの声とともに、子どもたちは一斉にスタートします。高学年の部には、私にも見覚えのある成人になった卒業生の臨時参加者も数名いました。競争意識を持ってじりじりと追い上げていく子、自分のペースを守って黙々と走る子、すっかり息が上がりながらもスタッフに付き添われて必死に足を運んでいる子、とさまざまです。コース沿いの観客は口笛を吹くなど盛んに声援を送ります。普段わが子のマラソンする姿など目にする事のない寮生の保護者の中には目を潤ませている人もいます。我慢の限界で途中座り込んでしまった子も含めて最後は全員が完走し、大きな拍手と喝采に包まれました。

スタッフがよく励まして挑ませ、子どもが一息懸命に頑張っ

た達成感を味わう。よくやったぞと子どもの努力を賞賛して喜びを共有する。地球の裏側に位置する国の学校ではあっても、武蔵野東のこうした教育上のスタンス、子どもとの関わり方は今も変わっていません。

支援ということばの奥行きには深いものがあります。表面上の本人の好き嫌いだけを尊重して見守るのは武蔵野東の教育ではありません。本人の力と場の状況を考え合わせ、その子の乗り越えられそうな負荷を与え、必要に応じて手助けをする。そうして一つのことを乗り越えられた子どもの顔は清々しく、人間本来の希望と喜びの表情そのものに輝きます。当教育センターにおいても、子どもたちが自分の限界を打ち破っていくときの、まさに自由を得たような喜びの笑顔によく出会います。我々大人を含めて、人間の価値を現在の自分からの脱皮、向上と規定するならば、私たちは彼らを見上げるべき存在と認識する必要があります。

教育センターの夏休みも目前になりました。4月の頃を考えると、廊下から眺める後姿に頼もしさを感じます。夏は子どもたちが精神的にも一皮剥ける季節です。どうぞ元気にのりきっていただきたいと思います。

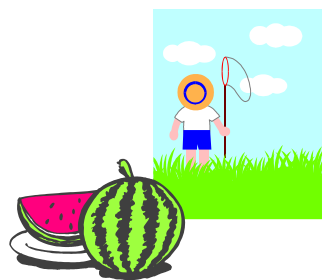
長内博雄(武蔵野東教育センター所長)



ポストン東スクール国際会議



ヒガシロードレース



## コラム 障害者擁護にたずさわって(4)

## この人たちの魅力 / 私がとりつかれたわけ

自閉症とされる人たちの良さ、それはこの人たちの症状と同じくらいたくさんあるでしょうが、そのうちでも私にとって、その「正直さ」があります。人の心や腹をさぐったり、人をだまし



たりということがとても苦手、いや、私にすればとてもそんな汚いことができない人たちということになります。ところが、この人たちの正直さは、人との

トラブルや事件といった場面では、しばしば悪く受けとられたりすることにもなります。例えば、生じた結果や周囲の状況からみれば、ことを荒立てずに謝ったりしておさめるべきところを、それができないために、関係者には反省しない態度と誤解されたりして損をさせられています。今の社会、この人たちの正直さはまだリスクでありハンディといわざるをえないでしょうが、しかし、それは同時にこの

副島 洋明 (副島弁護士事務所)

人たちの魅力にもなっています。それは障害特性というよりこの人たちの良さ / 人間性としてとりあげることができるものです。この人たちは、人との関係で一方で孤立しながらも他方で共同性をつくるような“力”、人をひきつける魅力をもっています。私もその魅力にとりつかれたひとりですが、それはこの人たちの正直さにみられる人間性が好きになったというところにあるのではないのでしょうか。

## 療育に思う &lt;コラム Mr. Tのつぶやき&gt;

ボストン東スクール創立20周年記念国際会議に出席してボストン東スクールも今年でようやく20歳を迎えた。武蔵野東学園からの出向で、創立のプロジェクトに携わり青年期のほとんどをボストンで過ごした私として、その感慨はひとしおである。今回の会議への出席は、現在のアメリカにおける自閉症教育と支援の現況を知るだけでなく、過去20年間の米国における自閉症教育や研究の変遷をふり返る意味深いものになった。

私が出向していた1987年から2005年の間には、実にさまざまな療法、手法が次々に流行し、消えていった。おそらく、歴史的にもその潮流が最も盛んな時期だったように感じている。ファシリテートコミュニケーション、マッサージセラピー、オーディトリセラピー(聴覚治療)、治療薬、ビタミン、ハーブ、ダイエット(食餌療法)、胃腸機能の異常説等(これは現在も優勢)、ざっと頭に浮かぶものだけでも書ききれない。これらの流行とその施しは、支援方法の行き詰まりを打開するためにも大いに期待されたが、特定の症例を除いては必ずしも成果が約束されたものではなく、公や保護者が負担する子どもへの医療費、教育費は大きくエスカレートしていった。

さて、現況であるが、僭越ながら私の選んだ「流行話題ベスト3」と銘打って紹介していきたいと思う。ちなみに、このノミネートは、今回私が出席した国際会議と、7月にアリゾナ州で行われたASA(全米自閉症大会)に出席した東スクール職員からの情報に基づいた私見、すなわち「つぶやき」であることをご理解いただきたい。

ベスト3から発表すると、“Self-Advocate”、自閉症者の人権や自己擁護に関する内容である。東学園との交流も深いスティーブン・ショア氏を始めとする当事者自らが発表するものが増えており、自閉症者の男女間のこと、結婚などについての話題も多くとりあげられていた。

このコラムは4回シリーズでお届けしました。

ベスト2は、“Beyond Autism”である。直訳すると、「自閉症の上(にあるもの)」となる。「自閉症者が見せる症状(行動など)は、全て自閉症が原因で起こっているのだろうか?」という素朴な観点から、自閉症者をバイオメディカル(生物医学)の見地でも診察していくことの提案である。この提唱は、これまで分業的になりがちだった心理と医療、精神科と内科などのエキスパート達のチームプレイを喚起し、多角的な治療や研究の可能性を広げていくことだろう。困った行動が、実は体の不具合が原因で引き起こされていることだってあるのだ。「行動は、言葉なり。」、苦痛を言葉で表現できない子どもはたくさんいる。この発表は、脳の研究で世界的な権威であるマーガレット・ポーマン博士によるものだが、博士は、東スクールのアドバイザリーボードのメンバーでもある。

ベスト1は、“Evidence-Based Practice”である。直訳すると「実証に基づいた実践」ということになるが、要するに、医療でも、教育でも、その成果が具体的に確認できる実践をせよという、各分野のプロフェッショナルたちへの自己啓発の喚起だ。これによって、以前のようにおまじない的な施しに多大な費用と時間を費やす必要がなくなり、医療面や教育面等の質的向上が期待できるだろう。各講演者の発表中も合言葉のように使われていた。

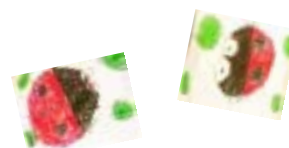
以上が、私の選んだ2007年の流行話題ベスト3だが、流行は20年前とは比べ物にならないくらい具体的かつ本質的になって来たように感じている。特に、Evidence-Based Practice「実証に基づいた実践」が世界規模のクオリティーコントロールとなって、支援者の意識向上と実践の質を高め、より多くの人々が自閉症スペクトラムの理解者となっていくことを願っている。



立派に成人した卒業生と

## ギャラリー紹介

今回は、海の仲間たち、梅雨の季節にちなんだカエルやかたつむり、てんとうむし、コンピュータの描画ソフトで作成した電車などをご紹介します。また、願いごとを短冊に書いて、七夕の笹に結びつけました。「ケーキやさんになりたい」「大きなハンバーガーが食べたい」「日本全国電車の乗りつくしをしたい」など、ほほえましいものやユニークなものもありました。子どもたちにとって、製作の喜び、完成の喜びはなによりのものです。自分の力で何かを作り上げたという喜びと達成感を大切に、自信へと育てていきたいと考えています。



## セミナーシリーズのご案内

平成19年度は5回シリーズで実施します。毎日の生活や支援に役立つ実践的な内容となっておりますので、どうぞ受講ください。

- 【第3回】平成19年9月15日（土） 10：00～15：00  
 10～12 北村典子（武蔵野東小学校教諭 学習）  
 西山雅人（武蔵野東小学校教諭 音楽）  
 13～15 是枝喜代治（東京福祉大学教授 ムーブメント教育）

- 【第4回】平成19年11月17日（土） 10：00～15：00  
 10～12 新堂雅彦（武蔵野東中学校教頭 図工）  
 13～15 今野義孝（文教大学教授 臨床動作法）

- 【第5回】平成20年1月26日（土） 10：00～15：00  
 10～12 杉本 明（リトミック研究センター 理事）  
 13～15 石垣まゆみ（言語聴覚士）



### 武蔵野東教育センター

〒180-0012

武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585

FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

ホームページもご覧ください  
<http://www.musashino-higashi.org>